

地元・熊本のチームの勝利に 守備の要として貢献したい

「プロの選手としてチームの練習に取り組む中で、綿密なポジションニングなどに勝負の世界の厳しさを感じた」と話すのは、今季からサッカーJリーグ2部・ロアッソ熊本に加入した藤本大選手。

今春、大学を卒業する藤本選手は、あこがれていたプロの道へ。Jリーグ1部・セレッソ大阪で活躍する兄・康太選手と同じく、DFとしてチームの守りを統率する。兄の影響でサッカーを始め



藤本 大さん
Fujimoto Dai

〔下田口区〕

ふじもと・だい / 今春、流経大を卒業し、ロアッソ熊本にDFとして加入。180センチの長身を生かしたヘディングが持ち味。背番号は32。

たのは、小学1年生のとき。クラブチームで鍛えられ、強豪・大津高へ進学。「1000人を超える部員がいて、気を抜けば、たとえ後輩でもポジションを奪われる。厳しいプレッシャーを感じながらも、それに負けないように練習を重ねた」と、高校時代は「サッカー漬けの日々」。3年時には主将を務め、「部員に対しては、厳しく接するより

も適切にフォローすること」を心掛け、インターハイベスト4や、全国高校サッカー選手権大会ベスト8などの実績を残し、プロを目指して流通経済大学へ進学した。

DFの役割について「とにかく失点をしないこと。1つのミスが失点につながるので、落ち着いて対応しないとけない。また、GKの次にピッチ全体が見えるポジションなので、声を出してチーム全体を動かすことが大切」と説く。「サッカーでは、シュートやアシストなど攻撃面が目目されることが多いけど、失点を0で抑えたときは本当に気持ちが良いし、攻撃につながる1本目のパスはDFから始まる」のも、守備の要としての面白さだと言う。

「一番の目標は、試合に出ること。自分が出る試合には、絶対に負けたくない」と、闘志をのぞかせる。「地元・熊本のチームの勝利に貢献したい。より多くの地元の人がスタジアムに観戦に来てくれれば、もっとがんばれる」と今季に懸ける思いは強い。